

園児募集

医療と療育を必要とされるお子様の
～物語を紡ぐ場所として～

三河青い鳥医療療育センターの通園は、障害を持つお子さんが保護者の方と一緒に通う幼稚園です。医療的ケアを必要とされるお子様の成長を全力でサポートします。

募集人数 若干名

対象 一歳半前後～就学前
未歩行のお子様、もしくは医療的ケアが必要で歩行可能なお子様

療育期間 月～金曜日 9:45～14:25(最長15:45)
週2日以上通っていただきます

おしらせ

体験保育のご案内

三河青い鳥医療療育センター通園部では、入園を検討されているお子様を対象に、「体験保育」を無料で行っています。日時やその他詳細につきましては、下記までご連絡ください。体験保育に限らず、気になる点がございましたら遠慮なくご連絡ください。お待ちしております。

TEL 0564-64-7980 (対応時間 9:00～17:00)

- ◆通園はこんなところ
- ◆通園での1日
- ◆保育の紹介
- ◆在園児の保護者の声
- ◆卒・退園児の保護者のメッセージ
- ◆園児募集

愛知県三河青い鳥医療療育センターは、障がいをお持ちの方に医療と療育を平行して提供できる施設です。

医療型児童発達支援センターでは、通園による医療と療育を、就学前の、医療的ケアが必要なお子様、肢体に不自由をお持ちのお子様を対象に行なっています。



【愛知県三河青い鳥医療療育センターの理念・基本方針】

【理念】

障害のあるお子さんと重症心身障害のある成人の方を主な対象とした愛知県東部における医療・療育センターとして、利用児・者の人権を尊重し、最良の医療を提供するとともに、多様化する福祉ニーズに的確に応えていきます。

【基本方針】

- 1 利用者へのサービスの向上
利用児・者に対する医療、療育の充実に努める。
- 2 地域福祉への貢献
地域における療育拠点として、各機関や行政との連携をはかり、利用児・者とその家族を支援する役割を果たしていく。
- 3 人材育成と明るい職場づくり
施設運営の持続的発展のため、職員に研修会等への参加の機会を与え、資質の向上をめざす。また、各職員が業務や運営についての意見が述べやすい環境づくりに努める。
- 4 財政基盤の安定化
安定した財政基盤の確立のため、収入財源の確保に努め、効率的な運営を行う。



通園の1日



9:45 登園／リハビリ前診察
登園したら、まずお帳面にシールを貼ります

10:00 自由遊び／リハビリ
リハビリがない日は、好きな遊びをして過ごします

11:00 朝の会 お返事遊び
みんなで輪になり、朝の活動をします

11:15 設定保育
日によって様々な活動をしています
(季節に合わせた遊び、感覚遊び、おやつ作りなど)

12:00 トイレ オムツ交換
子ども用トイレがあるので
トイレトレーニングもできます

12:15 昼食
お口から食べるお子さんや
経管栄養のお子さんもいます
給食の注文も可能で
栄養士と相談しながら栄養管理をしています

13:30 親子分離で自由遊び
保護者の方の休憩中に
お友達や職員と遊びます
お昼寝をするお子さんもいます

14:00 手遊び 帰りの会
お子さんが選んだ手遊びを
みんなで輪になって行います

14:20 トイレ オムツ交換

14:25～ 降園
最長 15:45 まで自由に過ごせます

保育の中で

大切にしていること

- もっとやってみたいという気持ちを大切に、子どもの育つ力を引き出していきます
- 子どもの小さな表情や動きから楽しいことを一緒に見つけていきます



設定保育の一部を紹介



お散歩

春や秋の気候が良い時期に
みんなでお散歩に行きます。
センター内のお庭でブランコ
に乗ったり、歩行器で歩いた
り、少し遠くのBBQ場まで
遊びに行ったりもします。



ゆれ遊び

プレイルーム内に
設置したスイングや
トランポリン、布ブ
ランコなどで遊びま
す。揺さぶられる感覚が大好きな子がいたり、苦
手な子がいたり、様々な反応が見られます。



シャボン玉

広いテラスで、のび
のびとシャボン玉を
飛ばして遊びます。
お子さんだけでなく、
保護者の方も大きなシャボン玉作りに挑戦
しています。



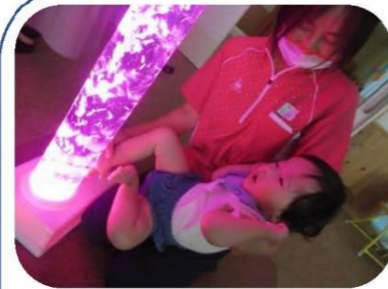
プール

夏はテラスでプール
に入ります。大小2
つのプールがあり、
大きいプールでは浮
輪で浮いたり、スタッ
フに身をゆだねたり
して、水の中の感
覚を楽しみます。



製作

季節ごとに製作物
を作り、お部屋や廊
下に飾っています。
描く、貼る、ちぎ
るスタンプするなど、
いろいろな方法や素
材を使って素敵な
作品を作っています。



スヌーズレン

薄暗くした室内で、
ゆったりとした音
楽と、光る装置を
見たり触ったりす
る活動です。リラ
ックスすることを
目的としており、
お子さんも保護
者の方も癒されて
います。



アジサイ と かたつむり



たなばた

在園児の保護者の声 ~通園の魅力を教えて!~

楽しいこと、辛いことを
一緒に分かち合える仲間に出会える。
子どもの成長をタイムリーに感じられる。



個児に対応したりハビリ、給食、
先生方の保育はかなりの成長につながる。

とても楽しいです!
いろいろとできることが増えます。

同じ境遇のママや子ども達がい
て、とても刺激的で楽しい場所です!!

子どもの成長を細かく見ることができ
て、親もいろいろなお母さんと話
すことができ、孤立しない。季節
の製作は楽しい!



給食を注文でき、
家ではなかなか進めることが
できなかった食事の練習が
できる場所。



障がい児を抱えているママ
たちの交流ができる場所。
自分も頑張ろうと思える
し相談もできる。



障がいのこと、日々の生活で
大変なこと、分かち合える
母がここにはいるよ!

令和3年度に卒退園をされたお子様の、親御さんからのお手紙の一部を紹介します。

R3年度卒園 Cちゃんのお母様のお手紙の一部です。

ここに通い出すまでは、行き場所は自宅と病院くらいしかなく、その頁市の保健師さん等からも、青い鳥に母子通園があるという情報は聞けず、こういった病気のお子さんたちの集団保育は、少なくとも3歳頃まではありませんと言われて途方に暮れる気持ちでした。こちらの医療センターの見学に来た際偶然に、母子通園の園児募集の貼り紙を見つけ、その後入園が叶ったという経緯でした。

家で親と過ごす時間とはまた違った一面が増えていくことが私にとって嬉しく、温かい療育の場が見つかったという思いでした。そういう実感を通して、徐々に親としても心の余裕を持ちながら、焦らずゆったり我が子をみられるようになっていったような気がします。きっと病気や障がいのある子を持つ全てのママパパたちが直面してきた困難や、葛藤がそれぞれにもあると思います。その中で日々子どもを命を守り育てながら、悩みながら、私たち自身もまた、子どもとともに少しずつ前に進んでいくのだと思います。私自身これからも悩みは尽きないとは思いますが、なるべく笑い飛ばしながら、おおらかな気持ちで、子どもとともに一歩一歩、母も学びながら歩いていけたらと思います。

R3年度退園 Gくんのお母様のお手紙の一部です。

治療の副作用、薬の副作用もあり、寝ていることが多く、何かいい刺激がないかと思い、通園に通うことを決めました。最初は本当に寝てばかりで大丈夫かな!?とっていました。そんな時、保育士さんをはじめいろんな方がGと接してくれて、1人で悩まなくて良いのかなと思って気が楽になったと思います。ママたちとの話も私にとって大きなものでした。GはGなりに少しずつ成長していて、嬉しい反面、まだ成長できるのではないかと、もしかして母が居ない方が、本人はがんばれるのではないかとという気持ちになってきました。

保育士さんと気がねなく病気のことを話せたり、相談できるママたちと離れるのはほんとうにさみしいですが、Gがもっと成長するため、もっといろんな事に自分から興味をもってもらいたい為に退園する事に決めました。リハビリや診察、歯医者やショートステイなどはこれからもお世話になるので、会った時はぜひ声をかけて下さい。

R3年度卒園 Yちゃんのお母様のお手紙の一部です。

入園して通いだしてみると、Yにとって初めてのことはばかりで、手型足型は全力で嫌がり、プールは毎回泣き、新聞紙遊びは眉間にしわを寄せて触ろうとせず、シャボン玉は無表情…と、なかなか楽しんでやれることがありませんでした。でも、年長になり、手型足型は嫌がらずに手足を出し、プールは泣かずにリラックスして入れるようになったり、シャボン玉と新聞紙遊びは笑顔で楽しめるようになりました。また、色々なおもちゃに触れられるようになったり、滑り台で遊ぶようになったり、自分で好きなもの、やりたい事を見つけて行動するようにもなりました。

R3年度退園 Iちゃんのお母様のお手紙の一部です。

Iを産んで、Iに障がいがあったからこそ周りの方の優しさにかくさん触れ、こんなにもIを支えてくれる人がたくさんいることに気づくことができ、感謝してもしきれません。そして、Iが成長できたのと同時に、親の私も通園に通うことで成長することができました。Iが急に成長することはないし、この子は障がい児なんだなと自然と受け入れることができるようになりました。通園に通っていなかったら、変な期待をもって、どこかで直面して打ちのめされていたと思います。Iがどの様に成長して、どこまで成長できるのかまったくわかりませんが、期待しすぎずゆっくり見守っていけたらなと思います。

R3年度退園 Kちゃんのお母様のお手紙の一部です。

子育てだから、「もう投げだしたい!」「もう嫌だ!」という気持ちになるのは当然で、障がいや病気があるとなおさら逃げだしたい気持ちになると思うのですが、その気持ちを親や、以前からの友人に言うのは何だか気を遣わせてしまいそうで、言えませんでした。口に出すと「よくがんばっているよ」とか「私だったらできないよ」とはげまされそうで、でもそれを言われたいわけでもなくて、悶々とした日々でした。そんな時に通園の皆はさらっと「本当しんどいよね。もう嫌だよね。」と言って共感してくれて気持ちがふわ〜と楽になりました。